

有料老人ホーム等入所申込等状況調査 の集計結果

令和8年7月
介護保険課

目次

1～6	目的、対象、期間、回収状況、回答者の属性、分析結果	1
7	結果	
(1)	定員及び入所者の状況	2
①	入所者（男女別）	2
②	入所者（年齢別）	3
③	入所者（要介護度別）	4
④	入所者（入居期間別）	5
(2)	待機者の状況	6
①	待機者の今後の推移	6
(3)	医療措置が必要な利用者の受け入れ	7
(4)	待機者、入所前、退去後の居場所	9
①	令和8年4月1日現在の「入所申込者（待機者）」の居場所	9
②	過去1年間の「新規入所者」の入所前の居場所	10
③	過去1年間の「退去者」の退去後の居場所	11
④	入所者が「退去する理由」	12

有料老人ホーム等入所申込等状況調査

1 目的

有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅及び軽費老人ホームの入所状況等を把握し、施設サービスの量を見込むための基礎資料とするため

2 対象

住宅型有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、
軽費老人ホーム〔84事業所〕

3 期間

令和8年3月27日～令和8年5月31日

4 回収状況

76件〔回答率：90.5%〕

5 回答者の属性

施設区分	対象事業所数	回答事業所数
住宅型有料老人ホーム	53	47
サービス付き高齢者向け住宅	25	23
軽費老人ホーム	6	6
合計 〔回答率〕	84	76 〔90.5〕

6 分析結果

- ・ 本調査結果からは、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、軽費老人ホームのいずれの施設においても、入所率は9割前後で推移している（p2）。
- ・ 入所者の属性では、85歳以上が約7割を占めるなど後期高齢者が中心となっており、あわせて要介護3以上の中重度者が3割強を占めていることから、施設全体として介護ニーズの高い高齢者の受け皿となっている状況がみられる（p3, 4）。
- ・ 施設区分別にみると、有料老人ホームは幅広い介護度の入所者が見られ、医療対応については他の施設と比較して対応可能な状況がみられる（p4, 8, 9）。
- ・ サービス付き高齢者向け住宅についても、中重度の入所者が一定割合を占めており、本来は自立から軽度の高齢者も含めた居住を想定した住宅であるものの、実態として中重度の入居者も見られ、有料老人ホームと類似した傾向がみられる（p4）。
- ・ 一方、軽費老人ホームは自立・要支援層が中心であり、長期入居の傾向が強いなど、比較的軽度な高齢者の生活の場としての役割が明確に表れている（p4）。
- ・ 医療対応については、酸素療法やインスリン注射、褥瘡処置など日常的な医療管理については対応可能な施設が多い一方で、中心静脈栄養やレスピレーター等の高度な医療措置については対応可能な施設が限られている状況である（p7, 8）。
- ・ また、待機者・入所前・退去後の居場所の状況から、在宅や医療機関からの受け入れがみられるとともに、退去理由としては、入所後の状態変化により医療機関や他の介護施設へ移行する状況がみられる（p9, 10, 11, 12, 13）。

7 結果（令和8年4月1日現在）

（1）定員及び入所者の状況

（単位：人、％）

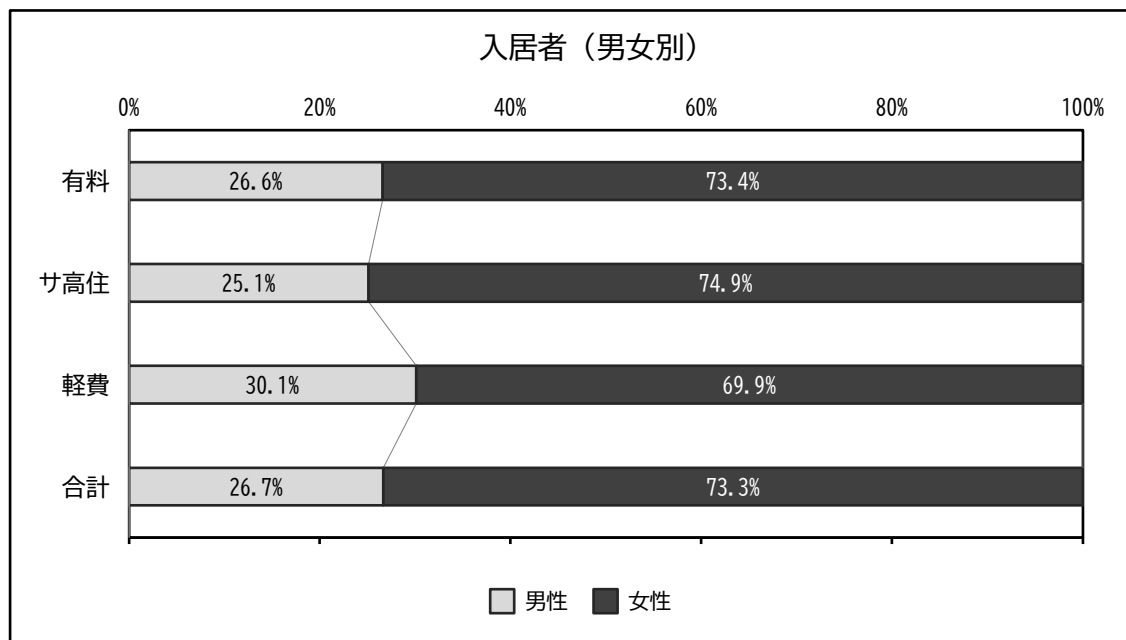
施設区分	定員数	入所者数	入所率
有料	1,521	1,375	90.4％
サ高住	704	649	92.2％
軽費	347	312	89.9％
合計	2,572	2,336	90.8％

全体の入所率は90.8％と定員に対して約1割弱の空きが生じています。
各施設区分間でも大きな差はありません。

① 入所者（男女別）

（単位：人）

施設区分	男性	女性	合計
有料	366	1,009	1,375
サ高住	163	486	649
軽費	94	218	312
合計	623	1,713	2,336

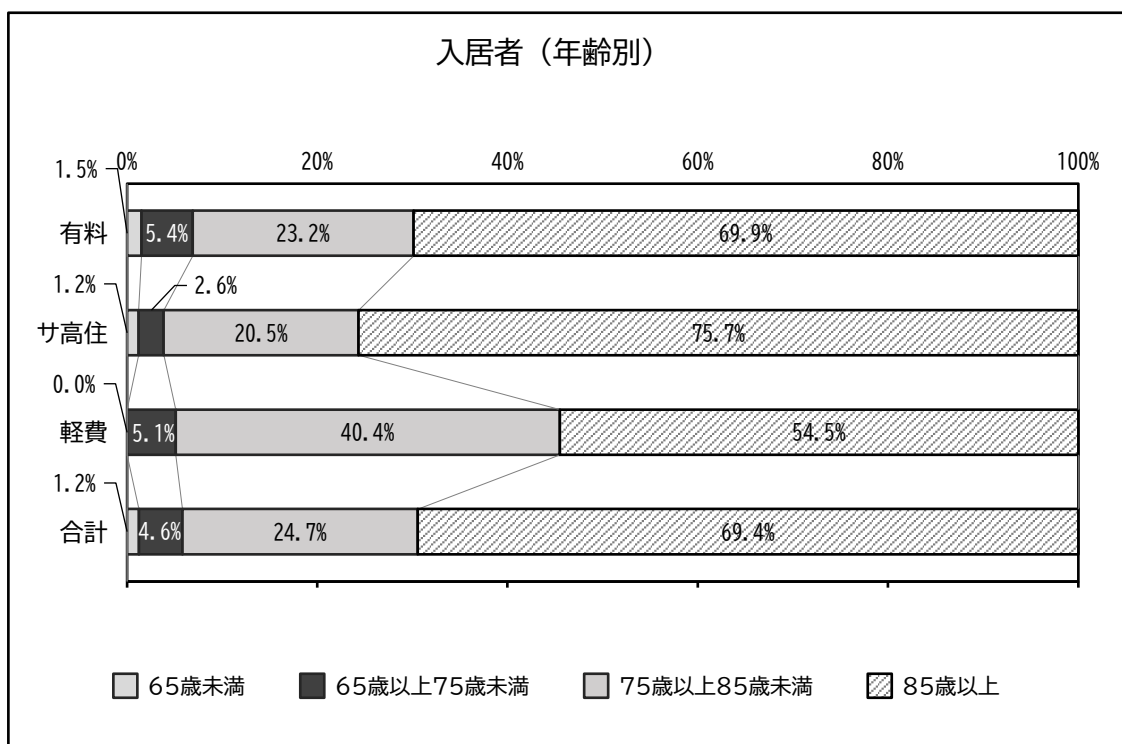


男女別でみると、入所者の73.3％を女性が占めており、女性の割合が高い傾向にあります。

② 入所者（年齢別）

（単位：人）

	65歳未満	65歳～75歳未満	75歳～85歳未満	85歳以上	合計
有料	21	74	319	961	1,375
サ高住	8	17	133	491	649
軽費	0	16	126	170	312
合計	29	107	578	1,622	2,336



年齢別の入所者では、全体で「85歳以上」が1,622人（69.4%）と最も多く、入所者の大半を占めており、入所者の多くが後期高齢者となっています。次いで「75歳～85歳未満」が578人（24.7%）となっており、75歳以上で全体の約9割以上を占めています。

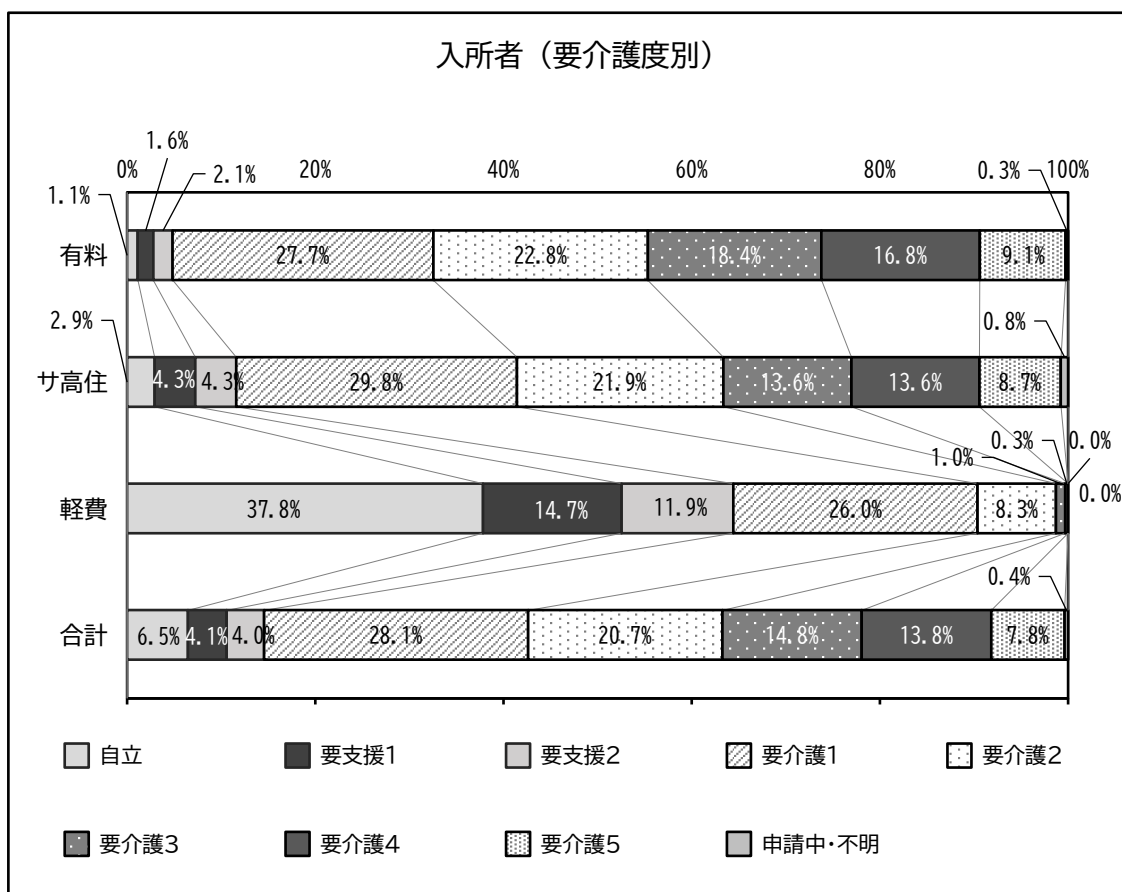
施設区分別にみると、有料老人ホームおよびサービス付き高齢者向け住宅はいずれも「85歳以上」の割合が高く、次ページの「入所者（要介護度別）」と見ても介護度が比較的高い高齢者の受け皿となっていることがみられます。

一方、軽費老人ホームでは「75歳～85歳未満」が126人（40.4%）と一定数を占めるとともに、「65歳～75歳未満」も16人（5.1%）みられるなど、他の施設と比べて比較的若年層の入所も含まれており、軽度な高齢者の受け皿としての役割が表れています。

③ 入所者（要介護度別）

（単位：人）

	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中 不明	合計
有料	16	23	29	389	320	259	236	128	4	1,404
サ高住	19	28	28	193	142	88	88	56	5	647
軽費	118	46	37	81	26	3	1	0	0	312
合計	153	97	94	663	488	350	325	184	9	2,363



介護度別の入所者では、要介護3以上が全体の3割強を占めており、中重度の介護ニーズもみられる状況となっています。

施設種別ごとにみると、有料老人ホームでは要介護1～3を中心としつつ、要介護4・5の入所者も一定割合存在しており、軽度から重度まで幅広い利用者に対応している状況がみられます。

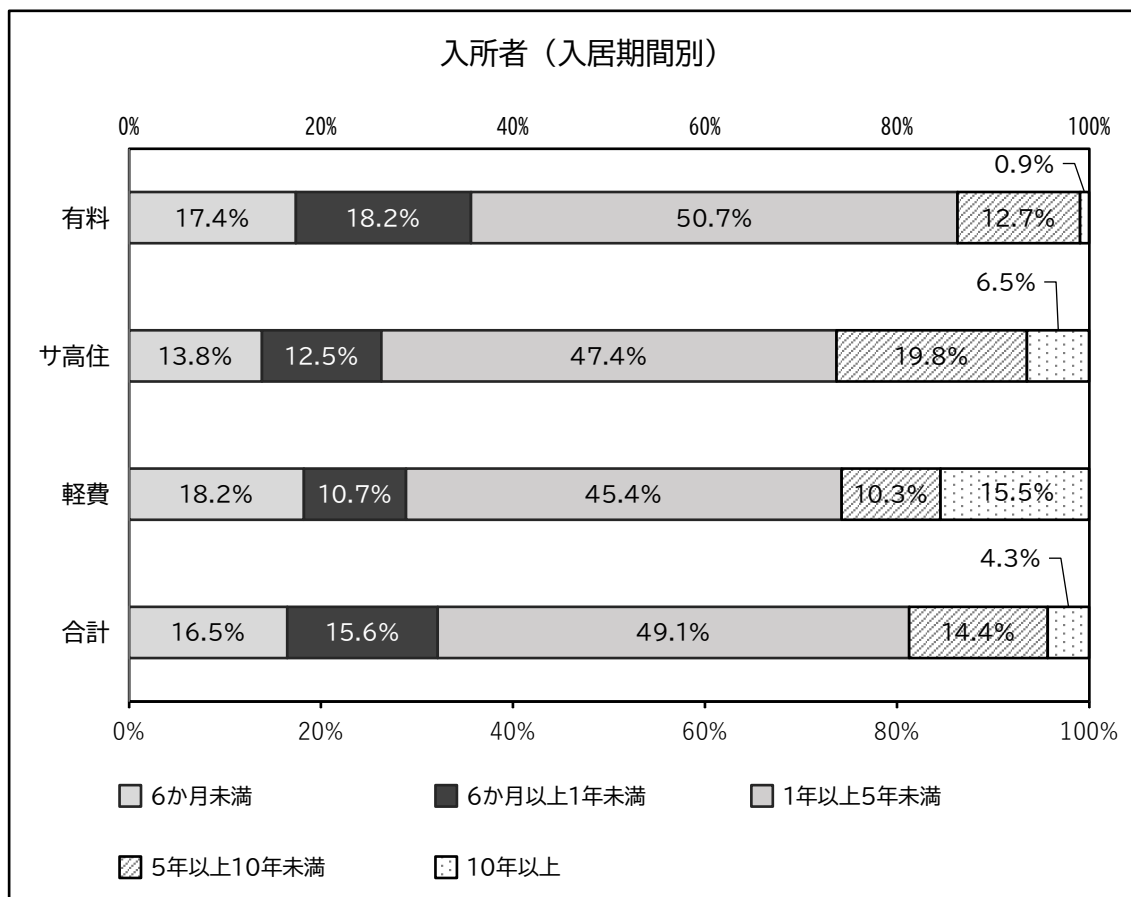
また、サービス付き高齢者向け住宅においても要介護3以上の入所者が一定割合を占めており、本来は自立から軽度の高齢者も含めた居住を想定した住宅であるものの、実態として中重度の入居者も見られ、有料老人ホームと類似した傾向がみられます。

一方、軽費老人ホームでは、自立および要支援が全体の約6割を占めており、比較的低度な高齢者の受け皿として機能しています。

④ 入所者（入居期間別）

（単位：人）

	6か月未満	6か月～1年未満	1年～5年未満	5年～10年未満	10年以上	計
有料	239	250	696	175	13	1,373
サ高住	90	81	308	129	42	650
軽費	53	31	132	30	45	291
計	382	362	1,136	334	100	2,314



入居期間別の入所者では、全体では「1年～5年未満」が約5割と最も多く、中期的な入居が中心となっています。一方、「1年未満」も約3割を占めており、一定の入退居の流動性がみられます。

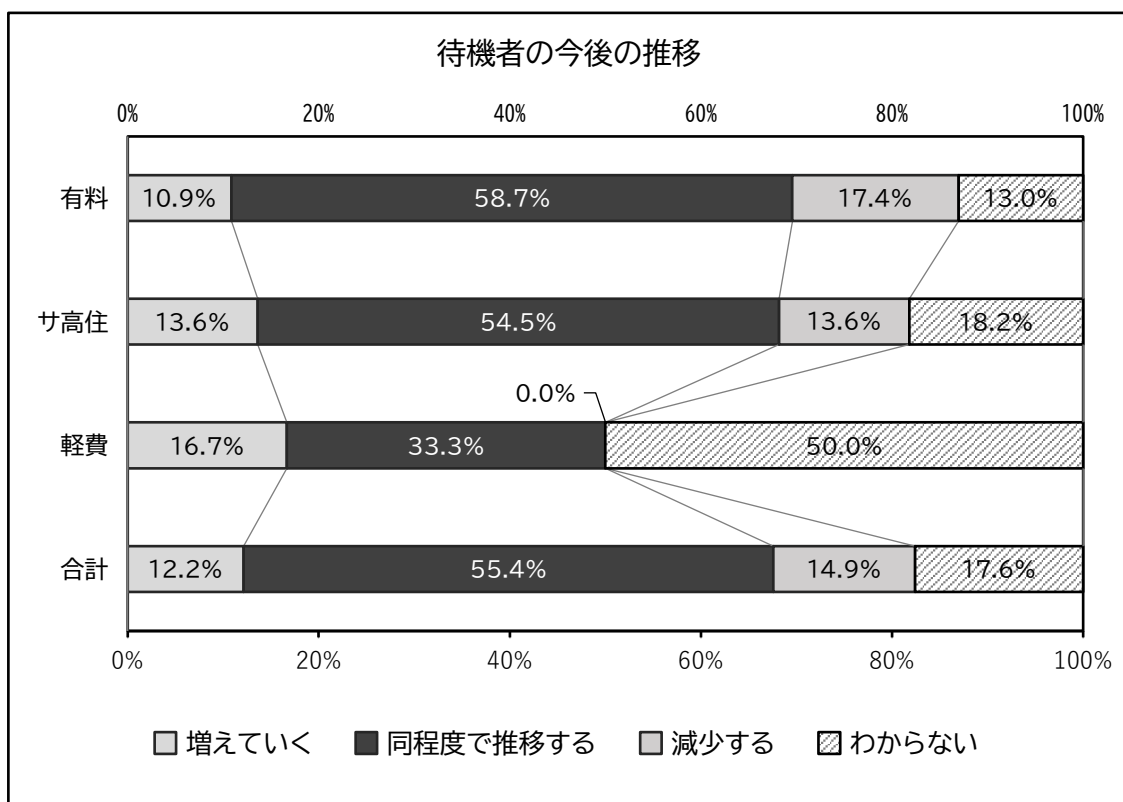
施設区分ごとにみると、有料老人ホームは他の施設区分と比べて短期入居の割合が比較的高く、流動性が高い傾向があります。
サービス付き高齢者向け住宅は中期的な入所が中心であるが、一定の長期入居もみられます。
軽費老人ホームは「10年以上」の割合が相対的に高く、比較的軽度な高齢者が多いことから、長期的な入所となる傾向がみられます。

(2) 待機者の状況

① 待機者の今後の推移

(単位：件)

	増えていく	同程度で推移する	減少する	わからない	合計
有料	5	27	8	6	46
サ高住	3	12	3	4	22
軽費	1	2	0	3	6
合計	9	41	11	13	74



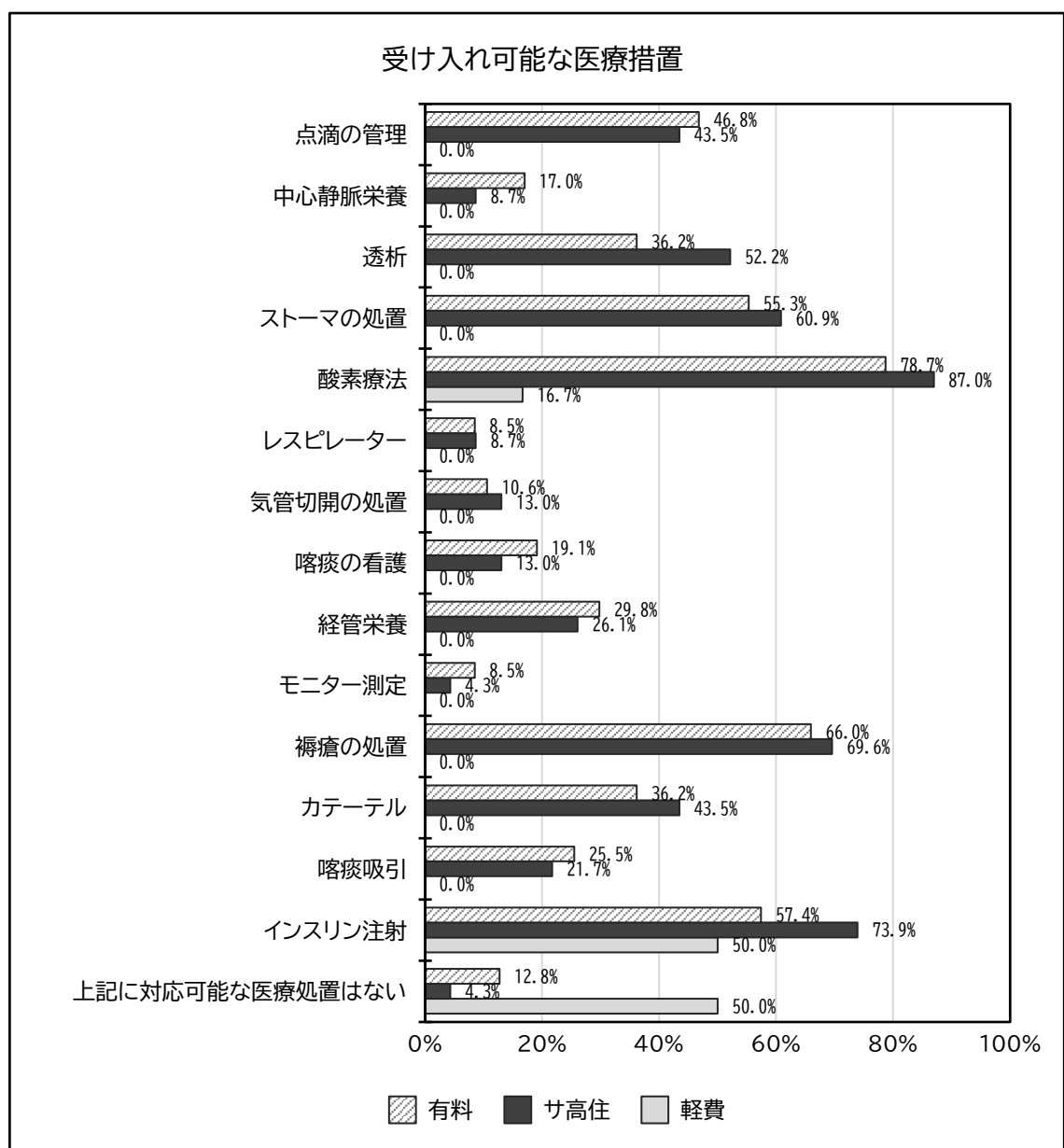
待機者の今後の推移については、全体では「同程度で推移する」が41件（55.4%）と最も多く、現状の待機状況が当面継続すると見込まれています。一方で、「増えていく」は9件（12.2%）、「減少する」は11件（14.9%）にとどまり、増減に関する見通しは限定的となっています。また、「わからない」も13件（17.6%）と一定数みられ、将来の動向に対する不確実性もうかがえます。

施設区分別にみると、有料老人ホームおよびサービス付き高齢者向け住宅では「同程度で推移する」が多数を占めており、現状維持の傾向が強くなっています。軽費老人ホームでは「減少する」との回答はみられず、「同程度」または「わからない」が中心となっており、一部で「増加」の見込みもあるものの、全体としては見通しが立ちにくい状況がみられます。

(3) 医療措置が必要な利用者の受け入れ（一人でも受け入れ可能であれば選択）

(単位：件)

	有料	サ高住	軽費	合計
点滴の管理	22 (46.8%)	10 (43.5%)	0 (0.0%)	32 (42.1%)
中心静脈栄養	8 (17.0%)	2 (8.7%)	0 (0.0%)	10 (13.2%)
透析	17 (36.2%)	12 (52.2%)	0 (0.0%)	29 (38.2%)
ストーマの処置	26 (55.3%)	14 (60.9%)	0 (0.0%)	40 (52.6%)
酸素療法	37 (78.7%)	20 (87.0%)	1 (16.7%)	58 (76.3%)
レスピレーター	4 (8.5%)	2 (8.7%)	0 (0.0%)	6 (7.9%)
気管切開の処置	5 (10.6%)	3 (13.0%)	0 (0.0%)	8 (10.5%)
喀痰の看護	9 (19.1%)	3 (13.0%)	0 (0.0%)	12 (15.8%)
経管栄養	14 (29.8%)	6 (26.1%)	0 (0.0%)	20 (26.3%)
モニター測定	4 (8.5%)	1 (4.3%)	0 (0.0%)	5 (6.6%)
褥瘡の処置	31 (66.0%)	16 (69.6%)	0 (0.0%)	47 (61.8%)
カテーテル	17 (36.2%)	10 (43.5%)	0 (0.0%)	27 (35.5%)
喀痰吸引	12 (25.5%)	5 (21.7%)	0 (0.0%)	17 (22.4%)
インスリン注射	27 (57.4%)	17 (73.9%)	3 (50.0%)	47 (61.8%)
上記に対応可能な医療処置はない	6 (12.8%)	1 (4.3%)	3 (50.0%)	10 (13.2%)



医療措置が必要な利用者の受け入れについては、全体では「酸素療法」が58件（76.3%）と最も多く、次いで「インスリン注射」47件（61.8%）、「褥瘡の処置」47件（61.8%）、「ストーマの処置」40件（52.6%）となっており、日常的な医療管理の項目については対応可能な施設が多い状況となっています。

一方で、「レスピレーター」6件（7.9%）、「気管切開の処置」8件（10.5%）、「中心静脈栄養」10件（13.2%）など、専門性の高い医療処置については対応可能な施設が限られています。

また、「上記に対応可能な医療処置はない」とする回答も10件（13.2%）見られ、一定数の施設では医療的ケアを伴う入居者の受け入れが難しい状況となっています。

施設区別にみると、有料老人ホームでは各医療措置において比較的高い対応割合がみられ、幅広い医療ニーズへの対応が可能となっています。一方、サービス付き高齢者向け住宅においても、「酸素療法」「インスリン注射」「褥瘡の措置」などを中心に一定の対応がみられるほか、「中心静脈栄養」や「レスピレーター」などの医療処置についても少数ながら対応可能な施設が存在しています。

両者の対応状況には項目ごとのばらつきはみられるものの、全体としてみると対応水準に大きな差はみられないものの、軽度から中程度の医療ニーズについては対応可能な状況となっています。

軽費老人ホームでは、多くの医療措置で対応が見られない一方、「対応可能な医療処置はない」とする割合が50.0%と高く、医療ニーズの高い入居者の受け入れは想定されていない状況と考えられます。

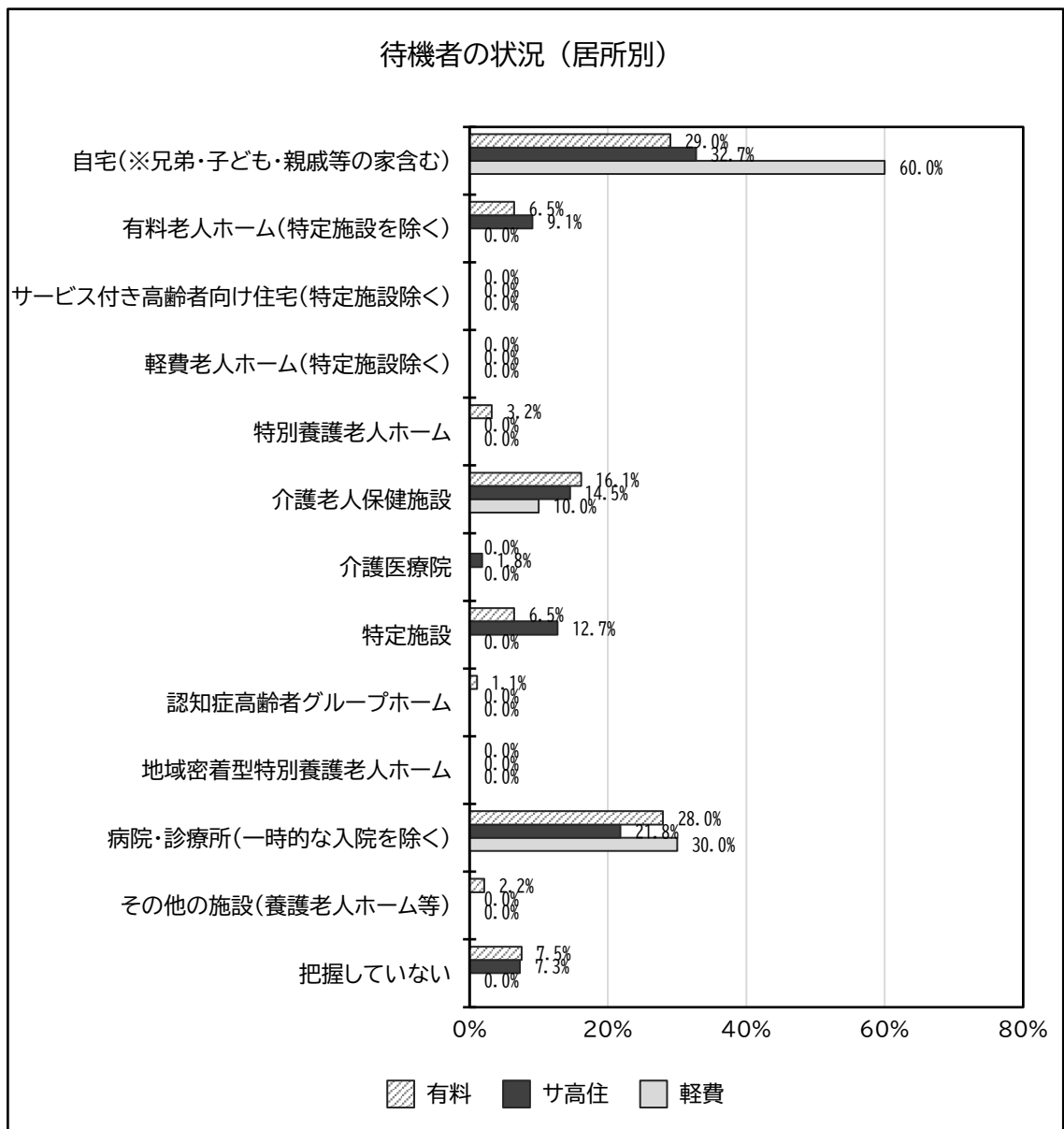
項目	内容
1)点滴の管理	水分・栄養・薬剤を点滴で投与・管理する
2)中心静脈栄養	胸部などの太い静脈から高濃度の栄養を投与。
3)透析	腎機能が低下した患者に対し、血液中の老廃物や余分な水分を除去する治療。
4)ストーマの処置	人工肛門や人工膀胱の周囲の皮膚ケアや排泄物の処理。
5)酸素療法	酸素濃度の高い空気を吸入させることで呼吸を補助。
6)レスピレーター	人工呼吸器による呼吸補助。
7)気管切開の処置	気管に開けた穴から呼吸を確保するためのケア。
8)喀痰の看護	痰の排出を促すケア。姿勢調整や水分管理など。
9)経管栄養	胃や腸に直接栄養を送る方法。チューブ管理が必要。
10)モニター測定	血圧・心拍数・酸素飽和度などの生体情報を機器で測定。
11)褥瘡の処置	床ずれの予防・治療。洗浄、軟膏塗布、被覆材の使用など。
12)カテーテル	尿道や血管に挿入する管。排尿や薬剤投与に使用。
13)喀痰吸引	吸引器を用いて口腔・気管内の痰を除去。
14)インスリン注射	糖尿病患者に対し、血糖値を調整するためのホルモン注射。
15)上記に対応可能な医療処置はない	該当する医療処置がない場合の選択肢。

(4) 待機者、入所前、退去後の居場所

① 令和8年4月1日現在の「入所申込者（待機者）」の居場所
(最も多いものを3つまで選択)

(単位：件)

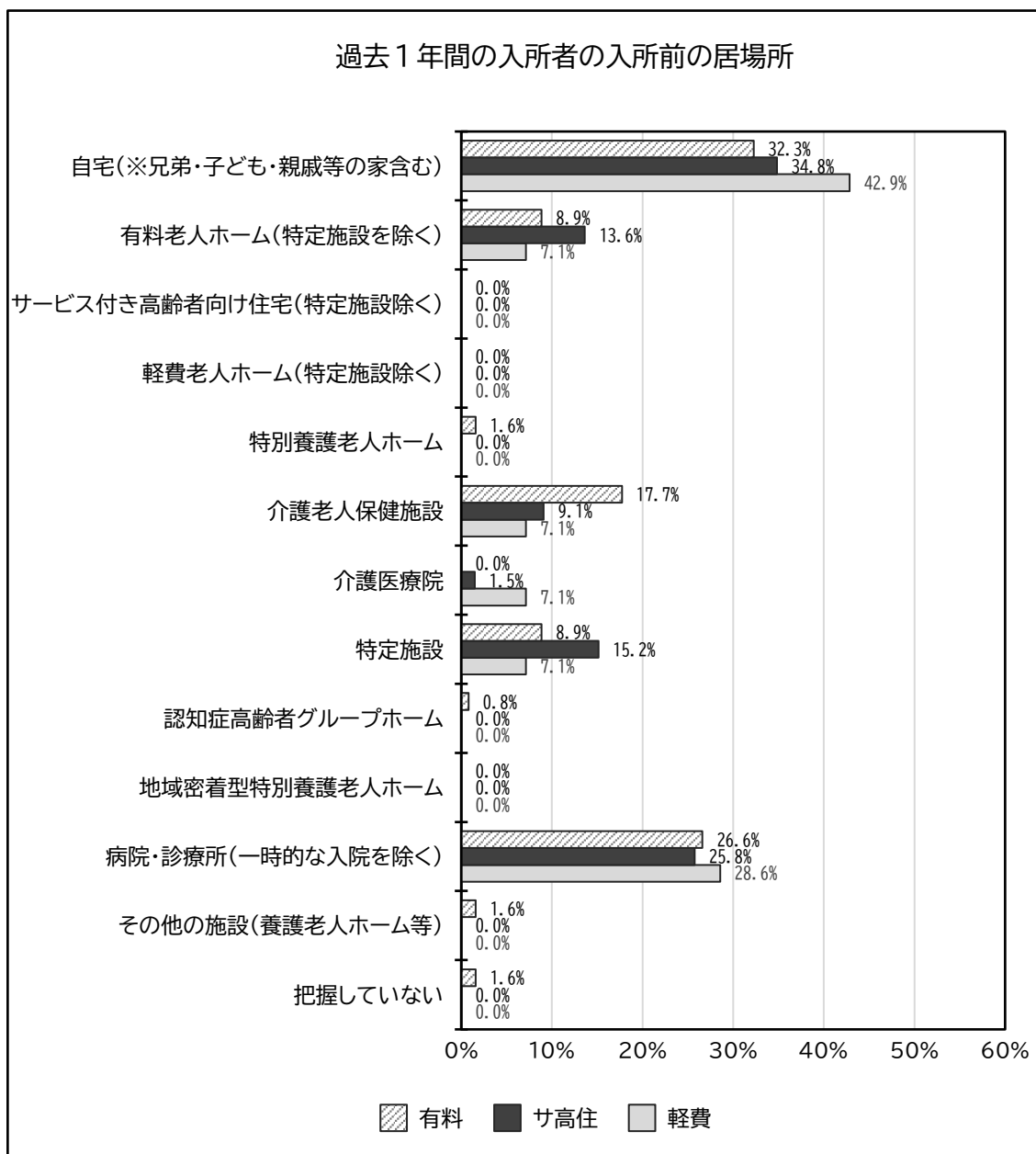
	有料	サ高住	軽費	合計
自宅(※兄弟・子ども・親戚等の家含む)	27 (29.0%)	18 (32.7%)	6 (60.0%)	51 (32.3%)
有料老人ホーム(特定施設を除く)	6 (6.5%)	5 (9.1%)	0 (0.0%)	11 (7.0%)
サービス付き高齢者向け住宅(特定施設除く)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
軽費老人ホーム(特定施設除く)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
特別養護老人ホーム	3 (3.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (1.9%)
介護老人保健施設	15 (16.1%)	8 (14.5%)	1 (10.0%)	24 (15.2%)
介護医療院	0 (0.0%)	1 (1.8%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)
特定施設	6 (6.5%)	7 (12.7%)	0 (0.0%)	13 (8.2%)
認知症高齢者グループホーム	1 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)
地域密着型特別養護老人ホーム	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
病院・診療所(一時的な入院を除く)	26 (28.0%)	12 (21.8%)	3 (30.0%)	41 (25.9%)
その他の施設(養護老人ホーム等)	2 (2.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.3%)
把握していない	7 (7.5%)	4 (7.3%)	0 (0.0%)	11 (7.0%)
計	93 (100.0%)	55 (100.0%)	10 (100.0%)	158 (100.0%)



② 過去1年間（令和7年4月1日～令和8年3月31日）の「新規入所者」の入所前の居場所（最も多いものを3つまで選択）

（単位：件）

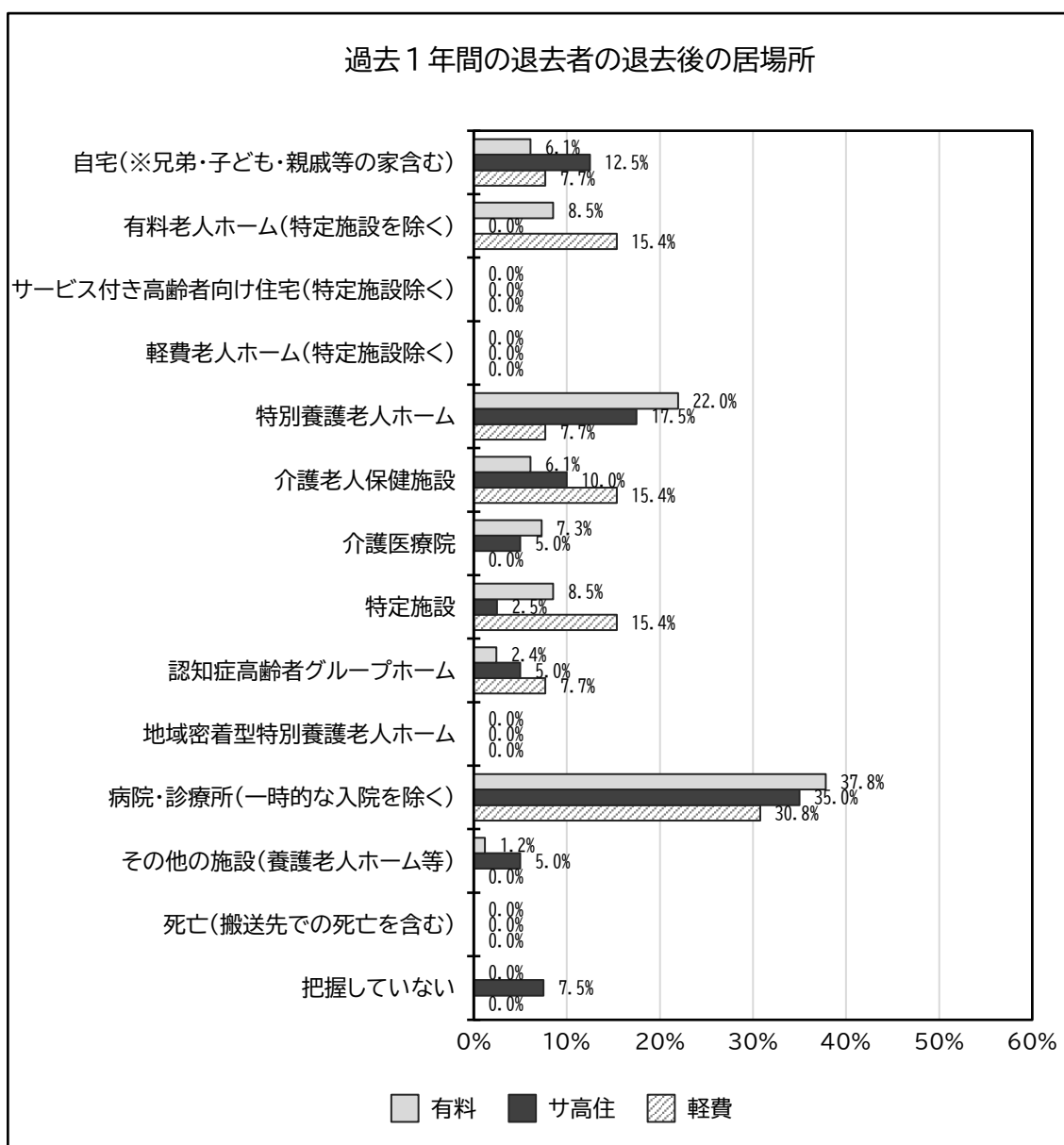
	有料	サ高住	軽費	合計
自宅（※兄弟・子ども・親戚等の家含む）	40 (32.3%)	23 (34.8%)	6 (42.9%)	69 (33.8%)
有料老人ホーム(特定施設を除く)	11 (8.9%)	9 (13.6%)	1 (7.1%)	21 (10.3%)
サービス付き高齢者向け住宅(特定施設除く)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
軽費老人ホーム(特定施設除く)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
特別養護老人ホーム	2 (1.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.0%)
介護老人保健施設	22 (17.7%)	6 (9.1%)	1 (7.1%)	29 (14.2%)
介護医療院	0 (0.0%)	1 (1.5%)	1 (7.1%)	2 (1.0%)
特定施設	11 (8.9%)	10 (15.2%)	1 (7.1%)	22 (10.8%)
認知症高齢者グループホーム	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)
地域密着型特別養護老人ホーム	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
病院・診療所(一時的な入院を除く)	33 (26.6%)	17 (25.8%)	4 (28.6%)	54 (26.5%)
その他の施設(養護老人ホーム等)	2 (1.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.0%)
把握していない	2 (1.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.0%)
計	124 (100.0%)	66 (100.0%)	14 (100.0%)	204 (100.0%)



③ 過去1年間（令和7年4月1日～令和8年3月31日）の「退去者」の退去後の居場所（最も多いものを3つまで選択）

（単位：件）

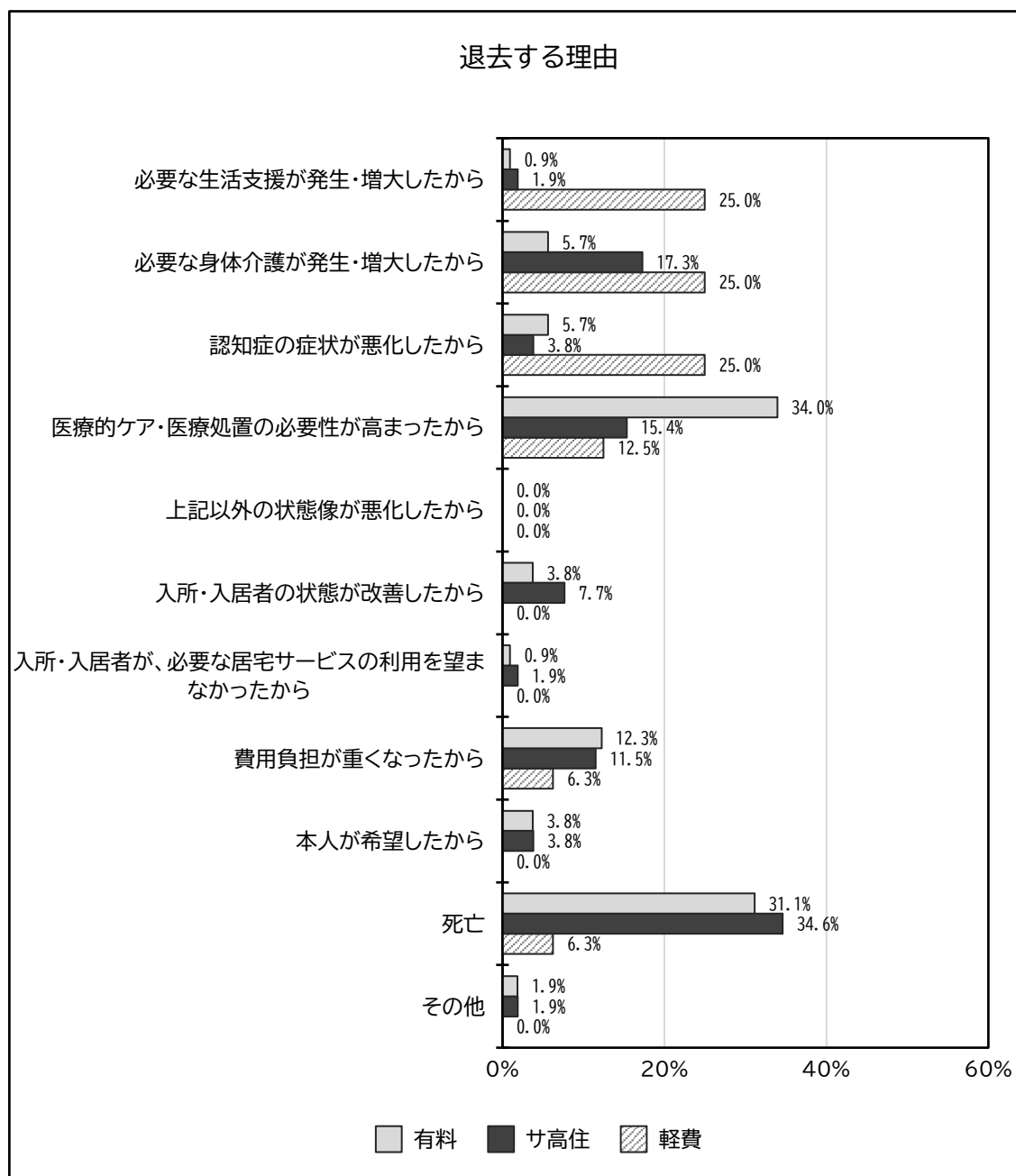
	有料	サ高住	軽費	合計
自宅（※兄弟・子ども・親戚等の家含む）	5 (6.1%)	5 (12.5%)	1 (7.7%)	11 (8.1%)
有料老人ホーム(特定施設を除く)	7 (8.5%)	0 (0.0%)	2 (15.4%)	9 (6.7%)
サービス付き高齢者向け住宅(特定施設除く)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
軽費老人ホーム(特定施設除く)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
特別養護老人ホーム	18 (22.0%)	7 (17.5%)	1 (7.7%)	26 (19.3%)
介護老人保健施設	5 (6.1%)	4 (10.0%)	2 (15.4%)	11 (8.1%)
介護医療院	6 (7.3%)	2 (5.0%)	0 (0.0%)	8 (5.9%)
特定施設	7 (8.5%)	1 (2.5%)	2 (15.4%)	10 (7.4%)
認知症高齢者グループホーム	2 (2.4%)	2 (5.0%)	1 (7.7%)	5 (3.7%)
地域密着型特別養護老人ホーム	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
病院・診療所(一時的な入院を除く)	31 (37.8%)	14 (35.0%)	4 (30.8%)	49 (36.3%)
その他の施設(養護老人ホーム等)	1 (1.2%)	2 (5.0%)	0 (0.0%)	3 (2.2%)
死亡(搬送先での死亡を含む)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
把握していない	0 (0.0%)	3 (7.5%)	0 (0.0%)	3 (2.2%)
計	82 (100.0%)	40 (100.0%)	13 (100.0%)	135 (100.0%)



④ 入所者が「退去する理由」（最も多いものを3つまで選択）

（単位：件）

	有料	サ高住	軽費	合計
必要な生活支援が発生・増大したから	1 (0.9%)	1 (1.9%)	4 (25.0%)	6 (3.4%)
必要な身体介護が発生・増大したから	6 (5.7%)	9 (17.3%)	4 (25.0%)	19 (10.9%)
認知症の症状が悪化したから	6 (5.7%)	2 (3.8%)	4 (25.0%)	12 (6.9%)
医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから	36 (34.0%)	8 (15.4%)	2 (12.5%)	46 (26.4%)
上記以外の状態像が悪化したから	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
入所・入居者の状態が改善したから	4 (3.8%)	4 (7.7%)	0 (0.0%)	8 (4.6%)
入所・入居者が、必要な居宅サービスの利用を望まなかったから	1 (0.9%)	1 (1.9%)	0 (0.0%)	2 (1.1%)
費用負担が重くなったから	13 (12.3%)	6 (11.5%)	1 (6.3%)	20 (11.5%)
本人が希望したから	4 (3.8%)	2 (3.8%)	0 (0.0%)	6 (3.4%)
死亡	33 (31.1%)	18 (34.6%)	1 (6.3%)	52 (29.9%)
その他	2 (1.9%)	1 (1.9%)	0 (0.0%)	3 (1.7%)
計	106 (100.0%)	52 (100.0%)	16 (100.0%)	174 (100.0%)



待機者の居場所は、「自宅」51件（32.3%）、「病院・診療所」41件（25.9%）と多く、在宅または医療機関からの入所ニーズが中心となっている状況がみられます。

また、過去1年間の新規入所者の入所前の居場所についても、「自宅」が69件（33.8%）、「病院・診療所」が54件（26.5%）と同様の傾向がみられ、在宅や医療機関からの受け皿となっている状況がみられます。

一方、退去者の退去後の居場所については、「病院・診療所」が49件（36.3%）と最も多く、次いで「特別養護老人ホーム」が26件（19.3%）となっており、状態の重度化や医療ニーズの増大に伴い、医療機関やより専門的な介護施設へ移行している状況がみられます。

また、退去理由については、「医療的ケア・医療処置の必要性の増大」が46件（26.4%）、「死亡」が52件（29.9%）と高い割合を占めており、入所後においても入所者の重度化が進行し、現在の施設では対応困難となるケースがみられる状況となっています。